

人が集い笑顔が広がる 昔懐かしい郷土菓子の工房

かごんま菓子工房 茶いっぺ

【かごんまかしこうぼう ちゃいっぺ】

鹿児島県
肝属郡
東串良町



シナモンの香りが広がる
“けせん団子”。地域に自生する
けせんの葉を蒸して香りを立たせ、
やさしい甘さの餡団子を包んだ
郷土菓子です。

心落ち着く素朴な味わい 郷土菓子を大切に未来に繋ぐ

平成元年の創業以来、地元で愛され続けてきたお団子屋さん〈前田商店〉。令和5年に娘の岡本昌子さんが屋号を新たに〈かごんま菓子工房 茶いっぺ〉として事業を引き継ぎました。「茶いっぺ」は、鹿児島弁で「お茶一杯」という意味。「お茶でもいかが？」というおもてなしの意味合いもあり、地元の人達には馴染み深い方言です。

取材当時は事業を引き継いでから1年半足らず。お母様が守り続けてきた心落ち

着く味わいはそのままに、時代に合わせた販売方法を考えたり、若い世代や子どもたちにふるさとの味を知ってもらおうと積極的にイベントに出店するなど、試行錯誤が続いています。「世代を超えて皆さんの“茶いっぺ”のシーンにいつまでも寄り添えるお菓子でありたいです」。昌子さんの想いと素朴なお菓子は、きっとこの東串良町に脈々と受け継がれていくことでしょう。

かごんま菓子工房 茶いっぺ

食べ比べが楽しい
詰め合わせ。
端午の節句の頃には
あくまきのセットも
登場します。



けせん団子、ふくれ菓子、蒸し羊羹一。お母様から引き継いだレシピをそのままに、昔ながらの製法で一つひとつ丁寧に手づくりしています。「保存料を使用していないこともあり、衛生面には特に注意を払います。対面販売や町の物産館などで販売するものとは異なり、遠方へお届けするものは真空パックにしています」。

衛生管理も万全に

安心して食べてほしいから



賑やかな笑顔が集う憩いの場

工房にはこども食堂も併設



空き家になっていた築100年ほどの空き家を友人から譲り受け、一部を工房に改築。先代から使っていた機械や道具を移し稼働しました。屋号を変え工房を新設したことを機に、町内唯一のこども食堂〈はらいっぺ〉も始動。月1回の実施日には仲間たちと100食ほどを用意します。子どもたちの賑やかな笑い声や「おいしい!」の一言が昌子さんのエネルギー。

かごんま菓子工房 茶いっぺ

〒893-1615

鹿児島県肝属郡東串良町川東3495

TEL/080-1542-2919



Instagram

発行:東串良町役場 企画課 ふるさと納税担当

〒893-1693 鹿児島県肝属郡東串良町川西1543

TEL/0994-63-2630 FAX/0994-63-3138



岡本 昌子さん(中央)

お菓子づくりは、気心の知れた仲間とともに。手際よく丁寧に真剣な眼差しで製造に向かいますが、作業から離れると賑やかな会話と笑顔が交わされます。「お菓子づくりもこども食堂も、明るく楽しく。同じ志の仲間がいてくれて成り立っているのが本当にありがたいです」。